

- 取組のねらい** 子供が本に触れるきっかけづくり 公立図書館の利用増大
地域全体の読書意識の向上 地域内の多様な主体と連携した取組
- 取組の主体** 中野区図書館全8館、中野区内の4つの商店街
- 取組の対象** 乳幼児・小学生とその保護者
- 取組の予算** 4つのイベントで5,000円以下

取組の背景・課題

中野区では、商店街と図書館による共催事業「親子への読書のすすめ」を行っています。「親子への読書のすすめ」とは、商店街内のスペースに図書館が出張し、本の貸出や児童書の展示、楽しい読み聞かせなどにより、親子読書の促進を図る事業で、活性化が課題となっている商店街とタイアップし、図書館を知らない層や敷居が高いと感じている人へのアプローチを目的として行っています。

取組の概要(課題解決にむけた対応策)

平成 18 年度に川島商店街振興組合との共催でスタートしたこの活動は、平成 20 年度に都立家政商店街、平成 23 年度に薬師あいロード商店街、平成 25 年度南台商店街が加わり、現在までに 4 つの商店街へ広がり、継続しています。中野区側の主管は図書館で、区立図書館 8 館が 2 館ずつにわかれて、年に一度 4 つの商店街をそれぞれ担当しています。

土日の 2 日間で開かれることが多く、スペースは商店街により様々であるが、8 畳ほどの広さの空き店舗を活用した休憩所や事務所を利用するケースが多くなっています。

イベント当日は 2～3 名の図書館スタッフが対応し、来訪者はその場で気に入った本を手に取り読むことができます。図書館員による読み聞かせも行っており、子供と一緒に参加することで読み聞かせを行ったことがない保護者にも関心をもってもらうきっかけも提供しています。

また、図書館利用につなげるため、図書館の利用者カードを仮発行することで本の貸し出しも可能で、後日図書館へ本を返却する際に正規カードを発行しています。

取組による効果・成果

利用者は、2 日間で平均 40 人程度。特に、薬師あいロードは他商店街に比べて人通りが多いため 2 日間で 140 人ほどの人が集まります。2 日間で 20～25 冊程度の図書の貸し出しも行われています。

他地域からの移住者など、これまで地元の図書館に縁のなかった人たちに図書館貸出登録をすすめ、新たな利用者の増加にもつながっています。また、地域の人々にも図書館を身近に感じてもらう機会となっています。

また、保育園への案内をしたきっかけから、保育園のお散歩の時間に立ち寄っていただき、その縁でおはなし会を実施するケースもあり保育園とのつながりも生まれています。



会場の様子

ここが Point 取組の工夫点

●商店街との関係づくり

商店街の普段の活動に配慮することで緊密な関係を築いています。書籍を大量に持ち込むため、商店街に配慮し搬入可能な時間を確認し、駐車についての相談など事前に相談の上対応しています。

●商店街との協働での広報活動

ポスターとフライヤーの作成、当日の商店街でのビラ配りやレンタルスペースの飾りつけは図書館スタッフが先行し、商店街の軒先に宣伝ポスターを掲示するなどの PR 活動は商店街に協力いただいています。図書館

のほかに幼稚園、保育園、小学校にもフライヤーの配布を行うなど地域協力のもと積極的に PR 活動を行っています。

●来訪者への配慮

読書が落ち着いてできる環境を提供するため、屋内で行うことと、無理に集客を求めず商店街や近隣のイベント日は避けて開催することを意識しています。

●事業評価の実施

来訪者へのアンケート、来訪者の人数と貸し出し人数の記録、実施後のレポートをもとに効果測定を行い次回開催に活かしています。

取組のねらい 特別な配慮の必要な子供たちへのより充実した対応
公立図書館の利用増大

取組の主体 熊取町立熊取図書館

取組の対象 特別な配慮の必要な子供

取組の予算 86,400円(人形劇公演委託料)

取組の背景・課題

熊取町第2次子ども読書活動推進計画において、すべての子供が本と出合う機会を充実させるため、「障がいのある子どもの読書環境の整備」を基本方針の一つとして掲げました。第1次計画では乳幼児期、学齢期の取組の1つでしかありませんでしたが、実際に計画を作り、取組を進めていくと、町の療育事業を行っている関係機関や支援学級担当の先生方と接する中で、必要な支援の多様さを知り、障がいのある子供への読書環境を整備する必要性を感じました。

取組の概要(課題解決にむけた対応策)

障がいのある子供を対象とした放課後等デイサービスが開設されてから、図書館の本の団体貸出をしたいという申し入れがあった際、図書館職員が団体向けにお話し会や絵本の読み聞かせなどを行えることを案内したところ、デイサービスの子供たちが図書館に来館するようになりました。その後、数年にわたりデイサービスの子供たちと関わる中で、取組の見直しをするため、図書館側からデイサービスに出向き、スタッフと話し合いを行いました。そこで、図書館に来館することができない子供たちにも絵本に親しむ機会を作ってあげられないかということで、町の生涯学習推進課が行っている「くまとり井戸端セミナー」(出前講座)の1つである、図書館が担当する団体向けお話し会を、デイサービスでも実施することになりました。

プログラムは子供たちが自由に楽しめるような、大型絵本の読み聞かせや紙芝居、手遊びを組み合わせた30分のプログラムです。春休み、夏休みなどの長期休暇中に、図書館職員2名がデイサービスを訪問してプログラムを実施しています。

また、このほかにも、町の療育事業に通う親子に向けた人形劇を図書館で開催し、図書館に来るきっかけ作りとして実施しています。現在では、支援学級の子供や放課後等デイサービスの子供も対象として案内を行っています。

取組による効果・成果

障がいのある子供たちに来館してもらう機会が少なかった中、支援学級や放課後等デイサービスなど団体に向けてPRを行ったことで、子供への絵本の読み聞かせを依頼され、現在も継続しています。年間を通して取組を実施しているので、子供たちともなじみになり、本の好みやどのような内容なら楽しんでもらえるのかがわかってきました。また、様々な障がいのある子供と接し、現場で回数を重ねることで、子供たちへの対応を学ぶ機会にもなっています。それは、図書館に来館する障がいのある子供への対応にも、デイサービスでの取組を通じて学んだことが生かされています。

療育事業に通う親子にとって図書館は必ずしも静かにしなければいけない場所ではなく、身近な場所として利用してもらえるようになりました。支援学級については、学校司書を通じて教員から資料の相談や貸出依頼も増えてきました。また、デイサービスのスタッフの方が団体貸出を利用して、施設内でも絵本を活用していただけるようになりました。



「さわる絵本」と「布の絵本」

ここが
Point

取組の工夫点

- 聞くだけでなく一緒に参加して楽しめるプログラム

障がいのある子供たちに向けて実施するプログラムは、一方的に読み聞かせをするのではなく、必ず子供たちが参加できるようなものにしていきます。例えば、「どっちを選ぶ?」「これは何?」という呼びかけに子供たちが答えられるような、一緒に参加できるものを取り入れています。

また、図書館に来館するだけでなく、こちらから訪

問して取組を行うことで、図書館に来館出来ない子供も含めて絵本を楽しむ機会を提供できるようになりました。

- ボランティア団体による「さわる絵本」「布の絵本」の作成、展示、貸出

熊取図書館の子供向けの本が並ぶ児童室の入り口には、ボランティア団体が作成した「さわる絵本」と「布の絵本」が展示され、誰でも自由に手に取ることが出来ます。絵本はフェルトや布で手作りされたものです。また、同じ場所には点字絵本も置いてあります。これらの絵本は貸出にも対応しています。

取組のねらい 子供が本に触れるきっかけづくり 子供の読書時間の増大、読書の習慣化 公立図書館の利用増大
子供の発達段階に応じた取組の充実 図書館におけるプログラム(行事・集会等)の工夫・充実
家庭における読書の推進 自治体内の多様な部局と連携した取組の推進

取組の主体 山梨市立図書館

取組の対象 乳幼児、小学生、保護者

取組の予算 平成29年度予算 ・ブックスタート事業:約208,000円 ・セカンドブック事業:約378,000円
・サードブック事業:約405,000円

取組の背景・課題

山梨市では平成14年から新生児に絵本を1冊プレゼントする「ブックスタート事業」を開始し、保護者が子供と直接向き合い、幼いときから絵本の読み聞かせをして、子供の感性や想像力を豊かに育てる時間がつくれるように支援を行っています。ブックスタートに続くさらなる取組として、平成20年6月、第1次「山梨市子ども読書活動推進計画『読書コミュニティ 山梨市〜心豊かな子どもを育てる読書プラン』」策定を契機に、計画内容の具現化として、図書館事業のセカンド・サードブック事業を企画(予算化)導入しました。

図書館事業として、特に小学校1年生までの年齢を対象に実施した理由は、幼い頃から多くの本に接し、本の楽しさを知り、親子、家族、地域のコミュニケーションの必要性と、保護者の読書に対する意識改革を図り、どの家庭にも本のある環境づくりを応援し、学校図書館を利用するまでの読書環境を充実させるためです。

取組の概要(課題解決にむけた対応策)

子供達の年齢に応じた本を贈り、本に触れる機会を増やすことを目的として、3ヶ月児を対象にブックスタート事業、3歳児にセカンドブック事業、小学1年生にサードブック事業を実施しています。

ブックスタートは、山梨市健康増進課で毎月開催する育児学級(3ヶ月児)において、生涯学習課・図書館職員や図書館ボランティアによる読み聞かせと絵本「いないいないばあ」1冊を手渡しています。(第2子以降は11タイトルから選ぶことが可能)

セカンドブックは、健康増進課で毎月開催する3歳児健康診査において、平成23年度から、教育委員会発行の文部科学省委託事業「幼児教育の改善・充実調査研究」「こころの絵本 さっちゃんの一日」を贈ってきました。図書館協議会で検討の結果、様々な本への出会いと親子の触れあいのきっかけ作りの大切さから、平成29年度以降、「ぐりとぐら」「しっぽのはたらき」の2タイトルから1冊と、図書館作成「3歳児にすすめる本」のリストを手渡しています。

サードブックは、山梨市、教育委員会学校教育課と連携し、全国読書週間中に、市内小学校1年生全員に、サードブックリスト20冊の中から希望の本を1冊贈ります。各小学校から家庭に、事業の説明とサードブックリスト20冊の中から希望の本1冊の申込書を配布します。各小学校図書館に、サードブックリスト20冊の展示もあわせて依頼しています。

取組による効果・成果

ブックスタート、セカンドブック、サードブック事業の継続と、図書館ボランティアとの協働による「おはなし会」の開催回数の増加、様々なイベントや職場体験学習、図書館見学等の子ども読書活動推進事業が充実してきています。また、計画の策定により、特に家庭や地域への読書推進の啓もう活動が図られました。さらに、平成28年11月のリニューアル開館により、2階(児童開架)を増床したことによる施設の拡充と自動貸出機の導入、蔵書の充実、開館時間の延長、職員数の増員などが、読書環境の充実にも影響していると思われます。

また、保護者の意識の変化により、各事業対象児と一緒に兄弟が参加したり、図書館利用において、保護者が子どもの本を借りる機会が増えたり、「おはなし会」等の図書館イベントへの参加人数も増えています。



ブックスタートの様子

ここが Point 取組の工夫点

●発達段階に応じた、継続的な取組

ブックスタート、セカンドブック、サードブック事業は、一過性の読書で終わることなく、子供が本の楽しさを知り、読書を習慣づけることや、大人も読書の大切さを改めて考える機会として、継続的に実施しています。また、図書館利用拡大に繋げる事業でもあります。

●コミュニケーションを重視

事業をスムーズにすすめるために、図書館ボランティアや保健師とのコミュニケーションを密にし、学校司書との連携を図っています。

●子供の読書活動推進計画による効果

計画に基づいた事業の展開が可能となり、計画の公開と周知により、赤ちゃんと保護者、家庭、地域への子供の読書活動の啓発、自治体内の他課や関係機関との連携がとりやすくなっています。また、事業の課題解決や評価により策定の見直しも実施しやすいものになっています。評価は、自治体として毎年度、子ども読書活動推進事業の事務事業評価を実施しています。「第2次山梨市子ども読書活動推進計画」策定後は、策定前に比べて18歳以下の図書館利用者貸出点数が、約1.26倍に増加しました。

【座長】

秋田 喜代美 東京大学大学院教育学研究科 教授

【委員】

沢屋 隆世 秋田県教育庁生涯学習課長

竹村 和子 公益社団法人全国学校図書館協議会 常務理事・事務局長

西橋 瑞穂 鹿児島県教育庁社会教育課長

堀川 照代 青山学院女子短期大学 現代教養学科 教授

(敬称略、五十音順)

平成29年度 文部科学省委託調査
子供の読書活動推進計画に関する調査研究
平成30年3月発行
(委託先:株式会社リベルタス・コンサルティング)

.....
文部科学省生涯学習政策局 青少年教育課
〒100-8959 東京都千代田区霞ヶ関3-2-2
電話 (03) 5253-4111 (代表)